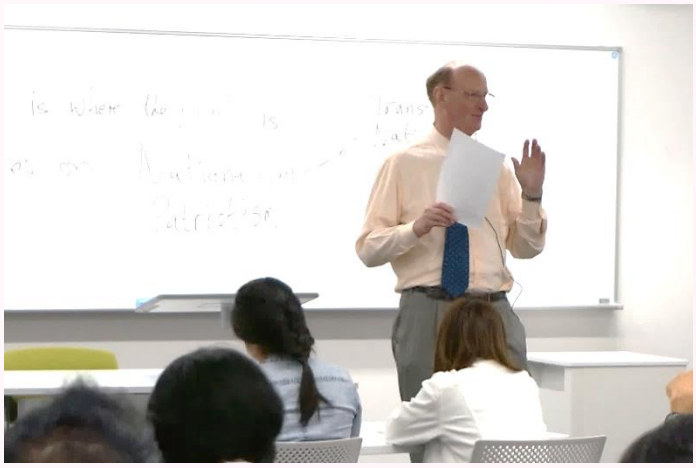
地域交流活動かわら版

特別増刊号　2016/05/21　地域交流課

News!

副学長　ポール・スノードン先生による
生きがいづくりコーディネーター特別講座開始！26名が参加！



4月より開講した【生きがいづくりコーディネーター養成講座】は、今年より必修の特別講座を設けています。全15回で『世界へのまなざしと地域活動』が全体のテーマです。

日本街を訪れる英語圏・中国語圏の人たちとのコミュニケーションにおいて、必要な異文化理解・日常会話力などの基礎を身につけるとともに、地域の魅力発見・魅力づくりの過程で必要とされる知識や具体的技法を学ぶことが出来る講座です。

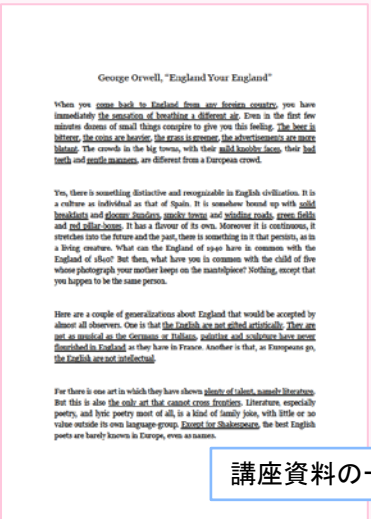
5月11日の初回は、スノードン副学長の「ふるさとの特徴を英語で考えてみよう」のテーマでした。スノードン副学長の穏やかな日本語で話す授業に、熱心に耳を傾けながらメモをとる26名の受講生。ユーモアを交えながら時おりやさしく質問を投げかけるスノードン副学長との柔らかい掛け合の授業がとても印象的でした。

スノードン副学長はイギリス出身でケンブリッジ大学を卒業後、日本の大学教育の中で35年もの経験を持ちます。副学長として人文・社会科学系の学部を中心に、カリキュラムの国際化および再整理を行うとともに、海外協定校を拡大して学生の海外交流を一層推進することに尽力を注いでいます。

授業風景

今回は、故郷・母・父・生まれ‥などのキーワードを使いながら、日本人が日常何気なく使っているけれども英語では表記しにくい言葉。またその逆で、英語圏の文化にはあるけれど、日本語に訳しにくい言葉の紹介、さらに単語の上手な発音方法など興味深い内容が数多く盛りこまれていた90分でした。

受講生の風景



George Orwell, "England Your England"

When you come back to England from any foreign country, you have immediately the sensation of breathing a different air. Even in the first few minutes dozens of small things conspire to give you this feeling. The beer is bitterer, the coins are heavier, the grass is greener, the advertisements are more blatant. The crowds in the big towns, with their mild knobby faces, their bad teeth and gentle manners, are different from a European crowd.

Yes, there is something distinctive and recognizable in English civilization. It is a culture as individual as that of Spain. It is somehow bound up with solid breakfasts and gloomy Sundays, smoky towns and winding roads, green fields and red pillar-boxes. It has a flavour of its own. Moreover it is continuous, it stretches into the future and the past, there is something in it that persists, as in a living creature. What can the England of 1940 have in common with the England of 1800? But then, what have you in common with the child of five whose photograph your mother keeps on the mantelpiece? Nothing, except that you happen to be the same person.

Here are a couple of generalizations about England that would be accepted by almost all observers. One is that the English are not gifted artistically. They are not as musical as the Germans or Italians, painting and sculpture have never flourished in England as they have in France. Another is that, as Europeans go, the English are not intellectual.

For there is one art in which they have shown plenty of talent, namely literature. But this is also the only art that cannot cross frontiers. Literature, especially poetry, and lyric poetry most of all, is a kind of family joke, with little or no value outside its own language-group. Except for Shakespeare, the best English poets are barely known in Europe, even as names.

講座資料の一部です

Hot News!

井の頭キャンパスの学生が「三鷹国際交流　ウォークラリー2016」でボランティア活動に参加しました！

5月15日（日）、井の頭公園で行われた「国際交流ウォークラリー2016」に、井の頭キャンパスの学生38人が昨年に続き参加し、受付・道案内・ごみ回収などのボランティア活動を行い、イベントをサポートしました。

「三鷹国際交流　ウォークラリー」は、さまざまな国籍のメンバーで混成グループを作り、三鷹市内の名所・旧跡を巡るイベントです。ポイントのイラストを頼りに道を探したり、クイズの答えを考えているうちに、自然とコミュニケーションが深まっていきます。三鷹市周辺にある法政大学・立教短大女学院等の学生と共に、本校からもボランティアグループ「feel」から20人、坂本ロビンゼミから18人、計38人の学生がスタッフとして参加しました。井の頭キャンパスに移行してからはじめての地域活動への参加となりました！参加者の人達は17グループに分けられ、グループごとに井の頭公園駅前から三鷹市下連雀にある同協会まで、約5kmという街歩きをしました。イベント終了後、外国人の案内ボランティアスタッフからは「身近に国際交流ができた」「三鷹の街をもっと知ることができた」「新しい友達ができた」との感想もいただきました。多くの満足した声が聞かれ、三鷹国際交流協会の担当者も「また、みなさんと交流出来ることを楽しみにしています」との期待も寄せて頂きました。

これからも、三鷹市の一員として多くの地域活動に貢献していきたいと思います。

Topics

4学部の全1年生が同時に受ける授業を開始！

三鷹にキャンパスを移し、全学生が受ける必修科目「地域と大学」を、今年度から4学部の学生が合同で受講しています。

「地域と大学」では、①地域における大学の役割②地域を取り巻く課題③文科省「地(知)の拠点整備事業」のテーマである「杏林CCRC」の概念を学んでいきます。

今回初めての試みとして、4学部の学生が混在するグループで授業をスタートしました。第一回は4月15日に厚生労働統計協会編集部長　西山裕氏（厚労省OB）を招聘し、メイン教室から7教室への同時配信による合同授業を受講しました。第二回は三鷹市の健康福祉部より、地域福祉課長馬男木由枝氏、高齢者支援課長　古園純一氏、地域福祉課地域ケア担当課長　二浦孝彦氏を招聘し、「三鷹市の医療・福祉政策」の講義を受けてショートレポート作成を作成しました。第三回は進邦先生、第四回は朝野先生が主導となり、KJ方によるグループディスカッション行いました。

このように1年生は「地域と大学」の基礎を一年次で学び、2年次以降は自らの専門分野を学びつつ、1年次で学んだ「地域と大学」の知識をベースに、本学のCOC事業の連携となる三鷹市・羽村市・八王子市の3地域における地域課題に対し、講義を通じて取り組んでいくことになります。

本講義はその前提として、地域における大学の役割、地域の諸課題、地域での学び方などについて学んでいきます。

杏林大学　地域交流課
〒181-8612　東京都三鷹市下連雀5-4-1
Tel　0422-47-8052　　Fax 0422-47-8054

杏林大学
文部科学省 地(知)の拠点